

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670801125		
法人名	株式会社ふれんど		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	998-0071 山形県酒田市古湊町9番8号		
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 21 日	開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 2 年 12 月 17 日	評価結果決定日	令和 3 年 1 月 8 日

(ユニット名 西の家)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

機能維持・体力低下防止の為、毎日レクリエーションやリハビリ体操を行っています。また、自分らしい生活をして頂く為に、ご本人の意思を尊重し笑顔でゆったりと過ごせるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

これまでの生活や出来ること・出来ないことなど利用者の情報を共有しながら「一人ひとりの希望に沿った日常生活のお手伝いをする」ケアに取り組んでいます。コロナ禍で楽しみにしていた地域の方との交流が制限される中、車窓から景色を楽しむドライブ外出や夏祭り、敬老会など事業所内での行事で気分転換を図り、料理の下ごしらえや洗濯物たたみなど家事を手伝い、リハビリ体操やレクリエーション活動で体と頭を使い出来ることを継続して生活しています。職員はやさしい声がけで利用者に寄り添い、思いを汲み取りサポートしながら支援しています。研修を通してケアの技術・質の向上に努め、毎日の関わりの中で気づきや問題があれば皆で話し合い、利用者の思いに沿った支援「お手伝い」が出来るよう取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部		項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を事業所内の玄関と食堂、事務所に掲示し、全職員の視覚に届くようにしている。ご利用者一人ひとりの希望に添った日常生活のお手伝いに努め、実践している。		利用者が家事など出来ることを手伝い、食事や余暇の時間を楽しみ、居室でゆっくり休み、理念に沿って本人が望む日常生活が送れるよう職員全員で支援している。一人ひとりをよく知り、気づきは皆で話し合い、一緒に楽しく過ごせるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、自治会行事にご利用者、職員と一緒に参加している。子供会が伝統行事でまわって来てくれたり、敬老会では地域の大黒舞の踊りの慰問もあり、地域との交流に努めている。		コロナ禍のため今年は自治会行事が中止となり、ボランティアや小学生の訪問も無く利用者と地域の方との交流は出来なかったが、事業所として自治会に加入し、運営推進会議では自治会長から意見をもらい、地域の一員としてのつきあいを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、自治会やご家族などに研修などで得た情報を伝える機会を設けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動の報告に終る事無く、委員から意見を頂きながら業務改善に活かすように努めている。		第1・2回は文書による開催で委員より意見をもらい第3回は出席を得て開催している。避難訓練や事業所の面会状況と他事業者の取り組み、自治会行事予定などを話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での情報提供や、疑問点があればその都度連絡を取り協力出来るようにしている。		市担当者・地域包括支援センター職員から運営推進会議メンバーとして意見交換しながら助言や情報をもらい、特に今年はコロナ対策で連携を深めている。市主催会議や研修会はすべて中止となったが地区防災協会等主催の研修会「身近な感染症予防について」に参加して内容を職員に伝達している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針とマニュアルを作成し、職員研修により周知徹底している。研修会では身体拘束の有無をチェックし、状況を把握して事業所内での情報の共有を図るようにしている。		身体拘束廃止委員会を年4回開催し身体拘束のないケアについて再確認している。ヒヤリ・ハット、事故等が起きた場合はその都度話し合い検証して対策を立て、安全に暮らせるようにしている。また身体拘束チェックシートで毎月確認して身体拘束のないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に施設内研修を行い、虐待についての理解を深め、情報の共有を図り防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業と成年後見制度の資料を準備して閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は契約書・重要事項説明書の説明を十分に行い、制度改正などで変更があった場合はその都度家族に説明し、意見や質問などを受けるなどして不安のないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族の面会時などの意見に耳を傾けながら運営に反映させるように努めている。	毎月「ご家族の皆様へ」、3ヶ月毎の苑報「ふれんど広場」で利用者の生活や行事・余暇活動の様子を伝え、料金納付来訪時や面会時家族等から意見や要望を聞いている。申し送りノートに記入して職員間で共有し、話し合い対応している。利用者の「行事の時にビールを飲みたい」などの要望にはノンアルコールビールを用意して応えている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、話し合う時間をとるようにして会議等で早期解決に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力に応じ手当及び昇給等を行ない、労働意欲向上に努めている。また、資格取得のためのバックアップや就業規則を改正し、安心して働ける環境作りをしている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会が研修計画を立て、外部研修や職場内での研修や伝達講習を実施している。	内部研修会では会議録で、外部研修会では復命書を職員全員で回覧してケア技術・質の向上に努めている。管理者は職員の意欲向上を図り、互いに信頼関係を築きながら働きがいある環境作りをしている。	内部研修の充実を図り、研修内容を振り返る機会を設けることなどの取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市が主催するサービス事業者連絡協議会への出席や、庄内グループホーム連絡会での各種研修会や他施設との情報交換を行っている。	コロナ禍で同業者との交流がほとんど中止となってしまったが、感染症対策の情報交換や県グループホームWebセミナーへの参加、また他事業者と一緒に高校生へのグループホーム説明会で講師を務めるなどこれまでと違う形で交流を図り、サービスの向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の申し込み時には、現況報告書を提出していただき、入所の順番が近づいた時には入居者と管理者が事前にお会いし、本人の状況や要望を情報収集し、ご本人やご家族の意向を確認して良好な関係づくりに努め、入所につなげるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人がいる前では話にくい事柄がある場合があるので、個々に話をして不安な事や要望を聞くように心がけ、ご家族が安心出来るような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接で知り得た情報を職員間で共有し、他のサービス利用を含め、その時に必要なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年の功の知恵を活かしたレク活動(笹巻や梅干し作り等)を通じて日常生活内での関係を築き上げるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望はご家族と情報を共有し、必要に応じて家族と共に取り組み、面会時はゆったり過ごせるように配慮している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的にドライブや外食、自治会行事に出掛け、馴染みの関係が築かれるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりの性格を理解し、職員が間に入り、ご利用者同士がコミュニケーションをとれる様に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者の生活環境が変化するため、これまでの経過を詳しく情報提供し、ご本人とご家族の不安が軽減される様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らしに対する思いに関心をもち、日々の会話を通してご利用者の思いを把握するように努めている。把握が難しい場合は生活歴によりご利用者の立場で考えて検討する。	生活歴や思い、何が出来るかなど利用者の情報を職員は共有してケアに取り組んでいる。関わりの中で変化や気づきがあれば申し送りノートや業務日誌・ケア記録に記入して周知を図り、職員間で話し合いながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用調査票を作成し、職員間での情報を共有し、ご家族の面会時などの会話から生活歴や趣味などが把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が一人ひとりの身体状況や精神状況などを申し送りや日々の打ち合わせなどで情報を共有し、総合的に把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時に色々な意見をいただき、ご利用者の現状を考えながら担当職員、看護師と共に介護計画を作成している。毎月、担当職員がモニタリングを行っている。	毎月担当者がモニタリング(観察)を行い、本人・家族等の要望を取り入れ、職員の意見を聞きとり「利用者は何を望んでいるか、何が出来るか」を大切に介護計画を作成している。看護師の健康状態の判断・意見を含めた評価検討会でプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の様子は、個人記録や業務日誌に記入し、職員間での情報共有や介護計画の見直しに活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の心身の能力を出来るだけ發揮してもらいながら、地域の人(理美容院、自治会、ボランティアの方々)との関わりを大切にし、地域の一員として豊かな生活が出来るように支援している。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者一人ひとりの状態を把握し、主治医との情報共有、ご家族との通院時に情報提供を行い、適切な医療を受けられるようにしている。	協力医や従来のかかりつけ医の往診を受け、看護師が立ち会って医師と連携しながら健康管理に努め、変化があった時は電話で家族等に報告している。皮膚科など他科診療を受ける時は事業所の情報提供書を持って家族等が付き添い、結果を共有している。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置する事により医療連携体制加算を算定し、日常の健康管理や医師との相談、連絡を取るなどの支援に努めている。状況により通院時に看護師が同行し、情報提供を行っている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、医療機関との情報交換を密にし、できるだけ早く退院できるように支援を行っている。また、必要な状況に応じ看護師と病院関係者が情報交換を行っている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、個人差があるので症状に合わせて医師やご家族と相談、話し合いを行い、経過をみながら支援を検討し取り組んでいる。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」をもとに本人・家族等に説明している。重度化が進んで主治医から指示があった場合は家族等と話し合いの場を設け今後の方針を共有しながら、希望があれば看取りにも応え最期まで穏やかに過ごしてもらえよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の身体状態の急変や事故発生時にも慌てずに適切な行動がとれるように、AEDを取り入れた研修やマニュアルを作成し、速やかな対応が出来るように努めている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、日中と夜間に行っている。津波災害時の取り組みとして、全利用者を対象に一時避難場所までの避難訓練も行っている。地域の防災訓練に利用者、職員共に参加し協力体制に取り組んでいる。	今年は火災時と地震・津波時の避難訓練を行っている。実施後は職員からの感想や意見をもとに話し合い、運営推進会議メンバーからも助言をもらって、改めて訓練の重要性を確認している。また毎月防災委員が防災機器の点検を行い有事に備えている。	車椅子の方が増えてきている事から、年2回の避難訓練に限らず召集訓練やシミュレーションする機会を設け、また非常時の利用者情報を整備して災害に備えることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者はおお客様であるという考え方で接するとともに、プライバシーの確保という基本的な事柄については全職員が気を付けている。	職員は利用者一人ひとりの生活歴やこだわりなどの情報を共有し、申し送り等で対応を話し合いながら統一したケアを心掛けている。梅干し作りなど年の功の教えもあり残存能力を活かして出来ることをやってもらい、敬いの気持ちをもってさりげない介助に努めている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の言葉だけでなく、表情や行動を注意深く観察しながら、日々の関係の中で、その方の思いが気付けるように援助を行っている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	生活リズムを整えるために日課はあるが、ご利用者の体調や希望に合わせ、臨機応変に対応している。ADL低下防止のためにレクリエーションや体操、散歩等を取り入れた支援を行なっている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりの衣類は長く着用できるよう職員が手直ししている。日常的に化粧をしておしゃれをする方もおられる。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全体的にADLの低下がみられるが食材の下準備等、出来る事を一緒に行なっている。行事食やご利用者の希望も取り入れたメニューで楽しく食事が出来る様に支援している。	併設するデイサービスの調理員の献立をもとに、出来る方の手伝いをもらいながら事業所で調理して、皆で一緒に食べる事を楽しみにしている。コロナ禍で外食もかなわず、ホットプレートで焼きそばや五平餅を作ったり、出張ラーメン屋を呼んだりして気分を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態にあわせた食事量、バランスのとれた食事を提供している。また水分は食事以外でもお茶やコーヒー等で摂取できるように支援している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは欠かさないように声掛けをし、必要に応じて職員が介助でブラッシングしている。義歯の方は夜間に洗浄剤も使用している。口腔内に異常があった場合は、ご家族に状態報告し歯科の往診対応も行っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁のある方でも定時誘導を継続して習慣性を大切にしている。また、一人ひとりの行動を把握し排泄のタイミングを計りトイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄を大事に起床時や食事、入浴前など定時に誘導すると共に、行動をよく観察してサインを見逃さずさりげなく声がけをしている。介助がいらない方はドアの外で見守り、必要な方も出来るところはやってもらい過介護にならないようサポートしている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者の便秘については排便のチェックをしながら、乳製品を提供したり運動をしたりして、できるだけ自然に排便できるように工夫して支援している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴日は決められているが、ご利用者の希望や状態に応じて入浴していただけるようにしている。	週3回を目安に入浴日を設けているが、汗をかく夏などは毎日入る方もいる。バイタル測定で体調を確認し、立ち上がりに不安がある方は職員2人で介助して湯船にゆっくり浸かってもらい、入浴後はお茶などで水分補給してさっぱりとした気分を味わっている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、その時の本人の体調や状況に合わせて支援を行っている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は全職員が見て把握できるようにファイリングしている。また飲み忘れや誤薬を防ぎ、体調が変化した時は看護師に相談して薬の調整などの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日テーブル拭きや洗濯物たたみ等のお手伝いをして頂き、レクリエーションでは内容に変化をつけて、一人ひとりの力が発揮できるように支援している。季節の食材で保存食作りなども行なっている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出掛ける時は職員に声をかけてもらい、見守りで外出するように対応している。季節を感じて頂けるようにドライブ等行ない、ご家族と外出の場合は最近の心身の状況を伝えて、安心して外出してもらえるように支援している。	コロナ禍でも対策をとって定期的にドライブ外出を楽しんでいる。車椅子の方も一緒に皆で出かけ、車窓からの景色を堪能し名所前での写真撮影では笑顔あふれる表情を見せている。また中庭(ウッドデッキ)での体操や芋煮会、事業所の畑の収穫など野外での活動で気分転換を図っている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している方はいないが、お金を所持しているご利用者がいる時は、本人より希望があった場合は職員と一緒に買い物に行ったり、職員が品物を購入してきたりしている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった場合は、電話をかける支援を行ったり、ハガキ等の購入やポストへの投函を行っている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの強い居室には遮光カーテンを使用したり、トイレなど共用の空間には芳香剤を置き、不快感をなくしている。玄関や廊下には季節毎の創作物を飾っている。GH敷地内の畑には作物や花を植え、ご利用者と一緒に収穫を行っている。	東の家、西の家、デイサービスで囲むように中庭が設置され互いの交流スペースとなっている。ほとんどの方が一日を過ごすホールは過度な飾りつけをしないで自宅と変わらない落ち着いた居場所になっている。また換気や加湿器の設置、アルコール消毒などの感染症対策を強化して動線の確保にも気を付けている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースでは一人になれる場所はないが、畳敷きの談話スペースがあり、希望があれば利用者が活用できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご本人やご家族がレイアウト出来るが、状態の変化に合わせてレイアウト変更を行い、居心地良く過ごせるようにしている。	介護用ベッド、洗面台、エアコンが備えてあり、タンスや鏡台などそれぞれ馴染みの物を持参して自分らしい部屋作りをしている。夜間は1時間毎の巡視で見守り、転倒リスクのある方は布団に鈴を付けて職員がすぐ駆けつけられるようにしている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には段差はなく、廊下には手すりが設置されている。利用者には出来ることは行ってもらい、不安がある事については職員が見守りながら一緒に行っている。		